

1940年7月、ナチスドイツに迫害されていたユダヤ人たちは、日本通過ビザを求めて、カウナス（リトニア）の日本領事館に押し寄せました。オランダやフランスもナチスに占領されていたため、ソ連から日本を通って他の国に逃げるしか助かる道がなくなっていたのです。

領事館の杉原千畝は、押し寄せてきたユダヤ人から話を聞き、ビザの発行を本国に問い合わせましたが、日本政府は発行を許可しません。考え抜いた杉原は、本国の意向に背き、自らの判断でビザの発行を決断しました。

それから1カ月近く、杉原はビザを書き続け、6千人とも8千人とも言われるユダヤ人の命を救ったのです。

第二次世界大戦が終結し、収容所生活を送った後、1947年、やっとの思いで杉原一家は日本に帰ることができました。帰国して2カ月後、外務省から突然免官を求められ、47歳にして外務省を去ることになりました。

退官後は、語学力を生かして貿易商社などの海外支店で活躍し、75歳で日本に帰国し

たのです。

1968年8月、イスラエル大使館から杉原に電話がありました。電話してきた人は、参事官として在日大使館に勤務しているニシユリという人でした。彼は杉原のビザによって命を救われた人で、28年間杉原を探し続け、ようやく見つけたとのことでした。

翌年杉原は、イスラエルに招待され、ユダヤ人を救った外国人を讃える記念館で勲章を授けられたのです。

1985年、ユダヤ人の命を救った功績により、イスラエル政府から「ヤドバシエム賞—諸国民の中の正義の人賞」を授けられました。日本人として初めての受賞でした。

すでに病床にあつた杉原に代わって、夫人と長男がイスラエル大使館で授賞式に参加しました。1986年、杉原は86歳の人生を終えました。

ナチスドイツの強い要求にもかかわらず、人種差別反対の立場から、国境を越えて、命を守るために旅券の発行を続けた杉原の勇氣ある行動を日本人として誇りにしたいと思います。

図書が寄贈されました

3月21日に、創立50周年を迎えた四国積水工業株式会社から、西条図書館に図書が寄贈され、石平貴裕代表取締役社長から目録が手渡されました。

この寄贈は「50周年という節目に未来を担う子どもたちのために」という思いから実現したものです。

寄贈された児童図書は、西条図書館の蔵書として、来館者の皆さまにご利用いただきます。



図書が寄贈されました

3月20日に、社団法人伊予西条法人会から、昨年に引き続き西条図書館に図書が寄贈され、星加隆夫会長から目録が手渡されました。

寄贈された児童図書は、西条図書館の蔵書として来館者の皆さまにご利用いただきます。



図書が寄贈されました

3月27日に、国際ソロブチミスト西条から、昨年に引き続き西条図書館に図書が寄贈され、宇佐美敬子会長から目録が手渡されました。

寄贈された児童図書は、西条図書館の蔵書として来館者の皆さまにご利用いただきます。



農業に関する副読本が寄贈されました

3月24日に、JA周桑およびJA西条から、農業に関する副読本「農業とわたしたちの暮らし」が寄贈されました。この副読本には、農業と食生活との関わりや農業の現状についてのカラー資料が多く掲載されており、小学5年生を対象に、社会科や総合的な学習の時間、食育の指導等で活用させていただきます。

